

地区の概要

当地区は都心から北西へ約4kmに位置し、西部地域の商工業及び行政の中心として発展しましたが、低層の木造老朽家屋の密集や用途の混在等の問題を抱え都市機能の更新が課題となっていました。昭和51年地下鉄琴似駅の開業による危機感と、その後始まるJR高架事業を契機としてまちづくりの機運が高まりました。昭和63年JR高架事業が完成し駅前広場等の基盤整備が進む中で再開発事業が具体化し、4地区で事業又は工事が完了しています。

この地区の特徴のひとつは、民間の建設運営による駅を中心とした空中歩廊ネットワークです。またJR琴似駅北口地区においては、「レンガの館」が本市の札幌景観資産として第1号の指定を受け保存活用されます。



事業前の琴似駅周辺(西側から望む)



地区の見どころ

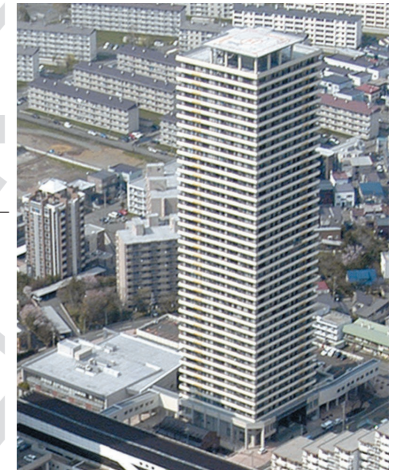
レンガの館

集会場として保存活用されます。

③JR琴似駅北口地区

第一種市街地再開発事業

(平成14~18年度 組合施行)
最新の超高層空間と歴史が息づく界隈性の共存



ザ・サッポロタワー琴似、タワープレイス、ザ・タワーガレージ

- 第一種市街地再開発事業
- 札幌市関連事業
- 空中歩廊
- カバードウォーク

⑤琴似4・2地区

第一種市街地再開発事業

(平成22年~25年度(工事期間) 個人施行)
駅周辺の一体性の向上と
ゆとりのある歩行者空間を確保



コルテナII

④琴似4・1,2地区

第一種市街地再開発事業

(平成16~18年度 個人施行)
アクティビティ溢れる琴似の新たな複合型エリア



D'グラフォート琴似メトロポリス、コルテナI

②琴似3・1地区(AI区・BI区)

第一種市街地再開発事業

(平成7~14年度 組合施行)
南口地区との連動によるオールマイティ型居住空間



ジョイフルプラザ琴似3・1、東急ドエルフロントシティ



ヴェルビュタワー琴似

①JR琴似駅南口地区

第一種市街地再開発事業

(平成3~6年度 組合施行)
地域の核と安全で快適な歩行者空間の創出



コトニジョイフルプラザ2・1(※現ロピア)

その他の 駅周辺整備

- a JR高架事業
(昭和63年度完成)
- b 駅前広場整備
(平成元年度完成)